

# 障害ある人 道具でサポート

## 八王子の伴さんら「自助具」製作団体

マヒなど障害がある人でもスプーンなどを使えるように補助する「自助具」。これを多くの人に届けたいと、八王子市の男性がボランティア団体をつくって活動中だ。男性は「自助具の存在を知ってもらい、製作団体も増えていけばうれしい」と話す。

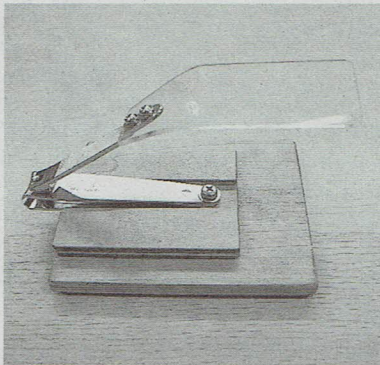
5月中旬、同市元横山町の市ボランティアセンターの一室。「八王子自助具工房フレンズ」のメンバー7人が作業していた。木をヤスリでこすったり、電動のこぎりで切ったり。代表で元会社員の伴毅さん(73)は「粉が飛ばし、終わった後掃除。常設の作業スペースがあれば、うれしいんですけどね」と笑う。

伴さんが自助具と出会ったのは2003年ごろ。定年退職後、当時は両親の世話で、大阪府箕面市の実家に住んでいた。そんな中、市の福祉施設内にあった福祉機器展示場の責任者を、知人に頼まれて引き受けたのがきっかけだった。

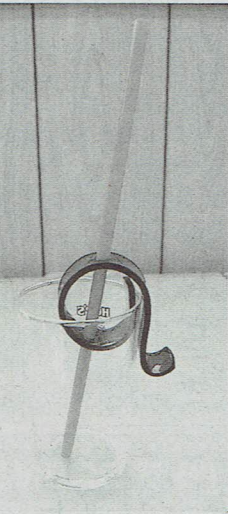
ただ活動を続ける中で、こうした団体は関東にはほぼないと聞いた。一般財団法人「保健福祉広報協会」の資料では昨年6月現在、自助具製作のボランティア41団体のうち、8割が関西・東海地方にあり、関東は2カ所しかないと言われる。

09年に母が、11年には父が亡くなり、八王子市の自宅に戻った伴

療法士らから、依頼が持ち込まれる。元々、エコカーを自作するほどの作りが好きて、製作を担当していたボランティアたちと一緒に作り始めた。



① 押すだけで爪が切れる自助具のついた爪切り  
② ふらふらしないよう固定する自助具のついたストロー



## オーダーメイド 市販品より安価

さんは、団体を立ち上げることにした。市ボランティアセンターに連絡し、昨年7月の広報紙に募集を掲載。定年後の生活を送る男性ら計11人が集まり、活動を開始。参加者らは「やりがいがあるし、ボケ防止にもなる」などと積極的で、これまでに障害者や病院などに計15点ほどを納めたという。

製作の流れは丁寧だ。障害の程度やニーズは人によって異なるため、本人に会って要望を聞く。試作と調整を繰り返して、1週間から2カ月ほどで仕上げる。障害は進行するため、状況が変われば調節もする。費用は材料費などの実費程度で、市販品の2〜3割ほどの負担で済むという。

利用者の反応は上々だ。エアコンのリモコンを持ちやすくする自助具などを作ってもらった八王子市元八王子町の無職志村正利さん(69)は「良くてきているし、柔らかい素材を使うなど心配りもある。市販品は高いし、自分にぴったりと合うものもそうないので、需要はあると思います」。

後継者を育てていずれば大阪に帰りたい、と伴さん。「自分のことを自分でできると自立心が強まり、元氣や幸せにもつながる。自助具を通じて、そんなことへのお手伝いができれば」と話している。問い合わせは伴さん(090・6554・0516)。

自助具について説明する伴毅さん(八王子市)

(川見能人)